



題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中泉松之助
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

申し上げます。
消防職・団員及び消防関係者の皆様に對しましては、日ごろから地域住民の生命・財産をあらゆる災害から守るため、日夜献身的に活動され、様々な努力をなされておりますことに心より感謝と敬意を表します。
昨年を振り返ってみますと、当協会にとりまして画期的な出来事が二つありました。
その一つは、財団法人から公益財団法人に移行したことです。
四月一日に移行登記を行ったのを機に、消防思想の普及啓発や消防団員の教養訓練の充実による地域防災力の向上をさらに強化するなど、よ



平成二五年の新春を迎え、県民の皆様並びに消防職・団員をはじめ消防関係者の皆様に謹んでごあいさつを

年頭の
ごあいさつ



公益財団法人秋田県消防協会
会長 中泉松之助

り公益性を高め、県民の福祉増進に努めて参りますので、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。
二つめは、第一八回全国女性消防団員活性化秋田大会を、秋田県と秋田市の共催を頂き、消防庁、日本消防協会、秋田大会実行委員会との主催で、一月一六日、秋田市の「秋田県民会館」で開催したことです。
「美の国へようこそ! 女性消防団員 秋田で元気に」をテーマに、県外からの参加者二千名を含む二千五百名が参加し、盛会裏に終えることができました。
参加した多くの方から「幅広い知識が習得でき、また『秋田らしさ』が随所に感じられ、見どころの多い素晴らしい大会であった」との評価を頂きました。
この開催を契機として、女性消防団員の活動は無論のこと本県消防団の一層の活性化を図って参りたいと考えております。
さて、昨年の災害の発生状況ですが、火災は依然として後を絶たず、自然災害は年末年始の大雪に始まり、二月には玉川温泉雪崩事故で岩盤浴中の客三人が死亡し、四月の爆弾低気圧は一五万戸にも達する停電のほか農業施設などに大きな被害をもたら

平成二十四年度全国統一防火標語
消すまでは 出ない行かない 離れない

らし、夏には記録的な猛暑が続き、熱中症患者の輸送に多くの救急車が発動するなど、自然の猛威を実感させられた一年となりました。
こうした中、安心・安全に寄せる地域住民の期待はますます大きくなっており、私たち消防人は、地域住民の負託に応えられるよう、なお一層の精進を重ねていく必要があると決意を新たにしているところでです。
一方、消防庁では、昨年八月に「東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会」の報告書をまとめられました。
協会としましては、報告書にありましたように若者が入りやすい消防団に向けた取組の重要性に鑑み、より多様で魅力ある消防団のあるべき姿を検討し、消防団の魅力発信しながら、消防団員数の減少傾向に對処して参りたいと考えておりますので、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。
終わりに、県民の皆様並びに消防関係者のご健勝と、本年が厄災のない良い一年でありますようお祈り申し上げます、年頭のごあいさつといたします。

平成二五年の
新春を迎えて



秋田県知事

佐竹 敬久



平成二五年の新春を迎えるにあたり、県内消防関係者の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申

上げます。

火災をはじめ、各種災害から地域の安全・安心を守るため、昼夜を問わず消防防災活動の最前線で、ご尽力いただいております消防職・団員の皆様のご労苦に対し、心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

近年は、東日本大震災にみられますように、災害が大規模、広域化しており、昨年は七月の九州北部豪雨をはじめ、地震や台風、竜巻などの自然災害が、全国各地に甚大な被害をもたらしたほか、昨年の一二月には、「中央道・笹子トンネル崩落事故」など、住民の身近な生活が脅かされる各種災害が発生しております。

本県においては、二年続けての豪雪やそれに伴う雪の事故、四月の爆弾低気圧、七月の大雨による河川の

増水や住家の浸水等による被害が各地に深い爪痕を残しており、さらには、記録的な猛暑の影響から、熱中症による救急搬送人員が、前年の三六二人から五三〇人と大幅に増加し、八月には死者が発生するなど、痛ましい事案も発生しております。

このように、相次いで発生する自然災害や、社会構造の変化による災害の複雑多様化など、消防防災行政を取り巻く環境は大きく変化し、これまで以上に、迅速かつ的確な対応が求められております。

県といたしましては、県民の安全と安心を確保するため、引き続き市町村及び消防本部等と連携し、消防・防災体制や救急救命体制の充実強化に取り組むほか、消防団や自主防災組織など、地域における総合的な防災力の強化、災害活動時の消防職・団員の安全確保に向け、各種施策を積極的に推進してまいります。

皆様方におかれましては、県民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、なお一層の御精進と御尽力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

結びに、本年が災害のない平穏な一年でありますこと、皆様方の益々の御活躍と御健勝を祈念いたしまして、年頭のあいさつとさせていただきます。

新年の
ごあいさつ



秋田県議会議長

大里 祐一



あけましておめでとうございます。平成二五年の新春を迎え、消防関係者の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃より防災の最前線にあつて、いっどこで発生するかわからない災害から県民の生命と財産を守るため、昼夜を分かたず献身的に活動されておりますことに対し、県議会を代表しまして、心から敬意を表しますとともに深く感謝申し上げます。また、皆様の活動を見守り、支えていただいている御家族の方々に対しまして重ねて御礼を申し上げます。

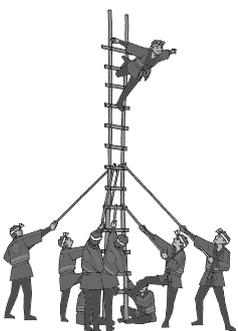
さて、未曾有の被害をもたらした東日本大震災をはじめ、昨冬の北海道・東北地方での豪雪、五月の関東地方での竜巻や七月の九州北部豪雨など、自然の猛威による災害が昨今多発しており、全国各地で大きな被害が生じ、かけがえのない生命と貴重な財産が失われております。また、東海・東南海・南海地震の震源域が

連なる南海トラフでの巨大地震について、被害想定が公表されたほか、首都直下地震の切迫性が指摘されており、

こうした中、災害による被害を最小限に食い止めるためには、国と県、市町村が一体となった防災体制の構築が不可欠であるとともに、地域住民一人ひとりが、避難や救助などの防災知識・技術を身につけ、自主防災に日頃から心がけることが何よりも肝要であると存じます。

地域を熟知する身近な地域防災のリーダーとして大きな役割を果たしていただいております皆様におかれましては、これまでと同様に「自らの地域は自らが守る」という郷土愛護の崇高な精神と強い責任感を持って、地域住民が安心して暮らせる安全な地域づくりのため、一層の御精進と御尽力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

終わりに、皆様の益々の御健勝と本年が災害のない平穏な年でありまして、新年のごあいさつといたします。



年頭の辞



消防庁長官

岡崎 浩巳



平成二五年の新春を迎えるに当たり、平素から地域の安心・安全を守るため、昼夜を分

かたず消防防災活動にご尽力頂いております全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昭和二三年に消防組織法が施行されて、市町村消防を原則とする我が国の「自治体消防制度」が誕生し、六五年を迎えようとしています。この間、我が国の消防は、関係各位のたゆまぬ努力の積み重ねにより、着実に進展し、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしてきました。

平成二三年三月に発生した東日本大震災は、これまでに経験したことのない大地震と巨大津波により各地に甚大な被害をもたらすとともに、福島第一原子力発電所の事故が発生しました。また、その後も、災害は後を絶たず、昨年は竜巻や豪雨による災害に加え、ホテル火災やコンビ

ナート施設における火災、トンネル内の爆発事故など、様々な災害が全国各地で発生しました。

このような状況下において、国民の生命、身体及び財産を守るため、今後の大規模災害等に備えた、更なる消防防災体制の強化を図ることが喫緊の課題となっております。

このため、消防庁においては、Jアラートの自動起動機等の整備や消防救急無線のデジタル化による災害に強い消防防災通信基盤の強化、消防団の充実強化や安全対策の推進、緊急消防援助隊の充実と即応体制の強化を図ってまいります。

このほか、ホテル・旅館等における、立入検査及び違反処理の推進や新たな表示制度等を含めた火災予防対策、福島第一原子力発電所の避難指示区域における管轄消防機関の支援や原子力災害に係る地域防災計画の策定支援などに取り組んでまいります。

皆様方におかれましても、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層のご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

皆様のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新春のご挨拶



財団法人日本消防協会

会長 秋本 敏文



平成二五年の輝かしい新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

消防団員、消防職員の皆様が、日夜献身的なご尽力をされていることに対し、心から敬意を表します。

東日本大震災以来、各地で大規模な地震発生の切迫性等が指摘されており、その中で国民の大きな願いである安心・安全を確保するためには、常備消防・消防団を問わず全ての消防関係者が一致協力して、使命達成にさらに邁進しなければなりません。

また、地域においては、消防団が中心となって婦人防火クラブ、企業、各種団体、さらには自主防災組織などを含む一般の皆さんと一体となった総合的な防災力を強化する必要があります。こうした中で、地域防災の中心となる消防団の充実強化は、ますます重要になっております。

日本消防協会では、安全対策を

含めた装備や処遇の改善等消防団の活動環境の整備や団員確保対策に引き続き全力を傾注して参ります。今年、一月二五日、東京ドームで消防団一二〇年・自治体消防六五周年の記念大会を開催します。私たちは、消防関係者のご協力を頂きながらこの大会を我が国消防がさらなる充実発展をとげる契機としたいと思っております。

最後に、全国の消防関係の皆様の一層のご活躍を衷心よりお祈りして年頭のご挨拶いたします。



年頭の ごあいさつ



秋田県市長会会長
秋田市長

穂積 志



全県消防関係者の皆様に、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様には、日夜

消防技術力の向上と士気の高揚に努められ、地域の安全と安心を守るため、全力を挙げて取り組んでおられますことに、心から敬意を表し、深く感謝を申し上げます。

さて、我が国は、春夏秋冬の四季と豊かな自然に育まれ、私たちは美しい風景や心安らぐ温泉、豊富な水資源等自然の恵を享受しております。その一方で、四季の様々な自然現象は台風や大雨、大雪などとなって襲いかかり、時として甚大な被害をもたらしております。

また、日本全国には、約二、〇〇〇箇所の活断層があるとされており、近年では、新潟県中越沖地震や岩手・宮城内陸地震など地方の都市が被災する地震も頻発しています。これら災害では、人的・物的被害はもとより、水害や土砂災害に伴う

交通の寸断、情報通信の途絶など、被害が更に拡大する傾向もみられております。

そして今、東日本大震災という未曾有の大震災を経験した私たちは、この災禍の検証と合わせて、各地で発生する災害とともに教訓や対応を導き出し、必要な対策を怠ることなく講じていくことが重要となっております。

幸いにして、皆様におかれましては、常日頃の鍛錬はもとより、防災組織の充実や防災思想の啓発普及、避難訓練の強化等、地域に根差した対策の推進に不断の努力を重ねられており、まさに地域に住む方々の頼もしいリーダーとして活躍されております。

しかしながら、少子高齢化や人口減少が進む中、各地で繰り返し起こる災害と相まって、寄せる信頼と期待、そして果たす責務はますます大きくなってまいります。時々刻々と変化する社会・自然環境のもと、今後とも地域の安全と住民一人ひとりの安心を確保していくため、一層のご精進とご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今年こそは平和な一年でありますことを願い、関係各位のご健勝とご発展を祈念いたしまして、ごあいさつといたします。

平成二五年の 新春を迎えて



秋田県消防長会
会長 海野 達雄



平成二五年の新春を迎えるにあたり、県内の消防関係者の皆様に謹んで年頭のご挨拶を

申し上げます。

皆様におかれましては、平素から地域住民の安心・安全を守るため消防防災活動に献身的にご尽力をされていることに対し、心から敬意を表します。

さて、昨年の自然災害を振り返りますと、四月三日朝から急速に発達した低気圧いわゆる「爆弾低気圧」は勢力を増しながら日本海を進み、五日に北海道を通過いたしました。国内では倒れた建物の下敷きになったり、風にあおられて転落するなどして五名の方が亡くなられたほか、多くの方が負傷いたしました。秋田県内でも、大きな被害が発生し、各市町村の消防職・団員が夜を徹して対応にあたったところでありました。

また、七月に九州地方で発生した豪雨災害は、気象庁が「これまでに経験したことがない豪雨」という表

現で注意を呼び掛けましたが、全国で三〇名以上の死者・行方不明者を出すという大きな災害となりました。

我々は近年の自然環境の変化や大規模化する風水害、竜巻等への防ぎよ体制を強化していかなければなりません。さらに、危険物火災等の特殊な災害や事故、国際的なテロ災害、新型インフルエンザへの対応など、あらゆる事態への活動を求められ、消防機関に寄せる地域住民の期待はますます大きくなってまいります。

秋田県消防長会といたしまして、迅速かつ的確な消防行政の推進に務め、社会情勢に応じた消防防災体制の充実・強化を図り、地域住民の安心・安全の確保に大きな役割を果たすために広域消防応援体制の更なる充実・強化が重要であると考えており、引き続き県内各機関との連携強化に努めていくものであります。

今年、消防団一二〇年・自治体消防六五周年という記念すべき年でもあります。皆様におかれましては消防の伝統を引き継ぎ、住民の安全と郷土の繁栄のため、より一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、皆様の益々のご健勝と本年が災害の少ない平穏な年であることをご祈念申し上げます。新年のあいさつといたします。

平成二四年度消防団員指導員研修は一月一日(土)、一日(日)の両日、由利本荘市の秋田県消防学校で開催され、二四消防団から二六名が参加し、幹部の心得、防災対策・住民指導、消防団の活性化などの座学や訓練札式、応急手当、消防訓練・消火活動・救助活動などの実技を熱



平成24年度 消防団員指導員研修受講者名簿

消 防 団 名	階 級	氏 名
大 館 市	班 長	西 嶋 光 浩
北 秋 田 市	部 長	黒 澤 芳 彦
上 小 阿 仁 村	団 員	北 林 一 憲
能 代 市	部 長	幸 坂 一 士
能 代 市	部 長	松 嶋 須 直
八 峰 町	分 団 長	佐々木 慶 夫
男 鹿 市	部 長	吉 田 一 人
男 鹿 市	班 長	鈴 木 光 市
潟 上 市	班 長	松 村 利 和
五 城 目 町	副 分 団 長	原 田 長 夫
井 川 町	分 団 長	櫻 庭 新 一
大 潟 村	副 分 団 長	三 浦 修
秋 田 市	分 団 長	斎 藤 正 俊
由 利 本 荘 市	団 員	嶽 石 元 気
に か ほ 市	副 分 団 長	佐々木 雄 一
大 仙 市	部 長	深 浦 豊 弘
仙 北 市	分 団 長	齋 藤 良 弘
美 郷 町	分 団 長	高 橋 忠 美
横 手 市 増 田	分 団 長	白 澤 進
横 手 市 平 鹿	副 分 団 長	飯 野 正 和
横 手 市 雄 物 川	副 分 団 長	佐 藤 洋 幸
横 手 市 大 森	分 団 長	今 野 英 幸
横 手 市 山 内	副 分 団 長	照 井 誠 治
湯 沢 市	分 団 長	佐 藤 久 夫
羽 後 町	分 団 長	柴 田 富 雄
東 成 瀬 村	副 分 団 長	半 田 大 治

心に受講していた。入校式で秋田県消防協会草薨忠誠副会長は「この研修は消防団員の指導に当たる幹部を養成するため、協会が日本消防協会の支援や秋田県消防学校の協力を得て実施するものです。消防団が抱える課題に、団員の高齢化やサラリーマン化の進行などで団員の減少に歯止めが掛からず、地域消防力、防災力の低下が懸念されていることが上げられます。このように厳しい状況下にある消防団ではあります、皆様方には、リーダーシップを存分に発揮されまして、消防に対する地域の期待に応えてもらいたい」とあいさつした。

消防半天・帯・団旗
優勝旗・ゼッケン
手拭・タオル・のれん
旗幕類名入染物専門

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋 田 県 代 理 店
総合防災設備センター

株式会社 高 義 商 会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース
トーハツポンプ | シバウラポンプ
各種消防機械器具 | 各種消火器
消防設備保守点検

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

消防団員入団促進 キャンペーン実施中

— 一月から三月まで —

消防団・消防団員とは

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つです。消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安全・安心を確保するために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

消防団員数は年々減少

本県の消防団員数は、昭和三十一年には三万六千人が在籍していましたが、その後、過疎化・少子高齢化の進行、産業・就業構造の変化等に伴い、年々減少し続け、平



栗田 文香さん
(安城消防団員)



栗田 文香さん
(安城消防団員)

わたしたちも消防団員。

地域の
防災ボランティア

消防団員 募集

消防団員は市民の方々が参加する、
まちを守り、心をつなぐ
自主的な防災のためのボランティアです。

入団促進重点推進事項

成二四年は半数を割り込み一万七千八百人弱となっており、地域における消防防災力の低下が懸念されています。

(一) 被雇用者の入団促進

現在の消防団員の七一・六%が、会社員などの被雇用者です。消防団活動には事業所の協力が不可欠となっており、より一層、事業所との連携強化を図って、従業員の入団促進を進めていく必要があります。

(二) 女性の入団促進

消防団員数が減少している中、女性消防団員は増加傾向にあり、本県の女性消防団員数は、平成二四年、二三八名の方が在籍しています。女性消防団員の活動は、火災予防広報、一般家庭や高齢者宅への防火訪問、

応急手当の普及啓発活動など多岐にわたっています。

(三) 大学生等の入団促進

消防団員の高齢化が進む中、若年層の消防団員確保が大きな課題となっています。大学生等(専門学校生を含む)の若い力を、消防団活動で発揮していただくことは大変有意義なことです。全国では、二千三百人(平成二四年)の大学生等が消防団で活躍しています。

多くの方の消防団入団を期待

消防団は、地域防災の中核的な存在で、地域の安全・安心を確保するために大変重要な組織です。是非、多くの皆様に消防団活動に対する理解を深めていただき、一人でも多くの方に消防団活動に参加いただけることを期待しています。

森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 協 立
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52) 6361
(52) 6494

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

秋田県の消防団員数

1. 消防団員数の推移 (平成19年以降)

(各年10月1日現在)

	消防団数 (団)	条例定数 (人)	実団員数 (人)	内 訳 (人、団)				
				男性団員	女性団員		機能別団員	
					団員数	採用団	団員数	採用団
昭和31年	93		36,174					
平成19年	37	20,434	18,433	18,321	112	11	34	2
平成20年	33	20,417	18,291	18,167	124	10	49	2
平成21年	32	20,188	18,196	18,030	166	14	55	2
平成22年	32	20,166	18,120	17,938	182	16	140	3
平成23年	32	20,091	17,951	17,736	215	17	163	4
平成24年	32	20,066	17,793	17,555	238	18	191	4

2. 消防団員数調べ (平成24年10月1日現在)

(単位：人、%)

消 防 団 名	条 例 定 数	実 団 員 数	う ち		定 数 充 足 率	女 性 団 員 の 割 合
			女 性 団 員	機 能 別 団 員		
鹿 角 市	892	841	23	39	94.28	2.73
小 坂 町	170	162	0	0	95.29	-
大 館 市	1,280	1,104	55	0	86.25	4.98
北 秋 田 市	870	747	0	0	85.86	-
上 小 阿 仁 村	120	97	0	0	80.83	-
能 代 市	850	750	11	0	88.24	0.15
藤 里 町	125	122	0	0	97.60	-
三 種 町	507	417	6	0	82.25	1.44
八 峰 町	281	252	2	0	89.68	0.79
男 鹿 市	820	779	4	0	95.00	0.51
潟 上 市	508	467	9	0	91.93	1.93
五 城 目 町	230	192	0	0	83.48	-
八 郎 潟 町	107	82	0	0	76.64	-
井 川 町	160	139	0	0	86.88	-
大 潟 村	52	51	0	0	98.08	-
秋 田 市	2,100	1,957	23	20	93.19	1.02
由 利 本 荘	1,802	1,675	1	103	92.95	0.06
に か ほ 市	610	589	17	29	96.56	2.89
大 仙 市	1,691	1,365	37	0	80.72	2.71
仙 北 市	767	610	13	0	79.53	2.13
美 郷 町	448	401	0	0	89.51	-
横 手 市 横 手	550	453	3	0	82.36	0.66
横 手 市 増 田	289	249	0	0	86.16	-
横 手 市 平 鹿	500	436	12	0	87.20	2.75
横 手 市 雄 物 川	507	447	0	0	88.17	-
横 手 市 大 森	285	240	0	0	84.21	-
横 手 市 十 文 字	550	477	2	0	86.73	0.42
横 手 市 山 内	183	172	7	0	93.99	4.07
横 手 市 大 雄	234	210	5	0	89.74	2.38
湯 沢 市	1,865	1,668	8	0	89.44	0.48
羽 後 町	513	465	0	0	90.64	-
東 成 瀬 村	200	177	0	0	88.50	-
計	20,066	17,793	238	191	88.67	1.34

